

To Our Bright Future

【実践者】

氏名	小川 知美	学校名	守谷市立愛宕中学校
担当教科等	英語	対象学年	第3学年
実践年月日もしくは期間(時数)	令和6年11月～12月		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域

外国語(英語)

2. 単元名と単元目標

① 単元名

Unit 6 Beyond Borders

② 単元目標

国をこえて助け合う大切さを知り、自分に何ができるのかを考える。

③ 関連する学習指導要領上の目標

話すこと〔やり取り〕イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

書くこと ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

3. 単元の評価基準

① 知識及び技能

<知識>

Unit6 までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。

<技能>

Unit6 までの学習事項を用いた文の理解をもとに、国をこえて助け合うことの大切さについて伝え合う技能を身につけている。

② 思考力、判断力、表現力等

国際的な視野で自分たちに何ができるかを考えられるように、ウガンダの子どもたちと自分たちの夢について、共通点や違いを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。

③ 主体的に学習に取り組む態度

国際的な視野で自分たちに何ができるかを考えられるように、ウガンダの子どもたちと自分たちの夢について、共通点や違いを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

4. 単元設定の理由・単元観

① 単元設定の理由

中学3年生は自分の将来について意識し始める時期である。教科書本文だけではなく、ウガンダとのオンライン交流や JICA 国際協力出前講座を通じて、日本と世界との繋がりを感じながら、自分の将来や夢について国際的な視野で考えさせたい。また、今回の国際交流を通じて、国をこえて自分たちには何ができるかを考えられるようになることを目的としている。

② 単元観

日本がアフガニスタンに送るランドセルの話を通じて、世界とのつながりの大切さについて考える単元である。世界では学校に通えずに、読み書きすらできない子供たちが今でも多く存在し、これらの子供たちを国を越えて支援しようとする取り組みについて伝えていく。また、日本は多方面にわたり海外の国々と相互依存している。他国との関係を健全にたもち、自分には何ができるかということを考えさせたい。

③ 児生徒観

明るく元気な生徒が多く、活発に授業に取り組む姿が見られる。しかし、将来の夢について深く考えている生徒は少なく、夢に関する話題になると会話が深まりにくい傾向がある。高校進学を控え、自分の将来について考え始めている時期である。今回のウガンダとの交流を通して、日本以外の国への関心が広がり、日本にいながらも自分にできることを考える機会となり、国際的な視野で将来を考えることができる授業を展開していきたい。

④ 指導観

3年生最後のユニットとして、国際協力、相互協力、相互援助について考えさせたい。また、自分の考えを積極的に話したり、書いたりさせたい題材内容である。今回の学習指導要領において、仮定法の文法が中学校での指導内容となったが、条件節、帰結節のある長い英文なので生徒が必要以上に難しく考えないように、文法導入においては、できるだけ身近な話題を使用したい。

オンライン交流では、ウガンダの文化や教育について生徒と事前に共有し、生徒自身が自分ごととして考え取り組めるようにしていく。互いの国についての紹介を通して、発展途上国で暮らす同世代の子どもたちの状況や、他国の様々な文化や習慣について理解することで、国際的な視野で考えられるようにしたい。また、ペアでの会話活動を通して互いの夢や将来について理由や根拠を含めながら伝えたり、質問したりすることで、会話が広がり深まるようなやり取りができるように指導していく。

5. プログラム計画

回	テーマ ねらい	方法・内容	使用教材等
1 本時	ウガンダについて知る ねらい:ウガンダについて興味をもつ。	・Unit6の単元 Goal を確認 ・ウガンダについて紹介	・Power Point ・MetaMoji ・写真
2	・将来について語り合う ・仮定法(If + 主語 + were …, ~.)の文の形・意味・用法を理解する。 ねらい:世界の子ども達の気持ちを理解するために、現実とは異なる願い事について書かれた文章の概要を捉えたり、伝えたりすることができるようにする。	・自分の夢や将来について話す ・Unit 6 Scene1 発展途上国について知る ・内容理解 ・文法確認	・MetaMoji ・教科書 ・デジタル教科書
3 本時	ウガンダとオンライン交流 ねらい:国際的な視野で自分の夢や将来について考える。	・オンライン交流	・MetaMoji ・タブレット
4	仮定法(I wish I could [had] …)の文の形・意味・用法を理解する。 ねらい:世界の子ども達の気持ちを理解するために、現実とは異なる願い事について書かれた文章の概要を捉えたり、説明したりすることができるようにする。	・本文の内容理解 ・文法確認	・デジタル教科書 ・タブレット
5	国際理解 ねらい:発展途上国で暮らす、同世代の子ども達の現状を知り、自分たちにできる国際貢献について考えることができるようにする。	・JICA出前講座による講話	
6 7	仮定法(If + 主語 + 動詞の過去形, …)の文の形・意味・用法を理解する。 ねらい:国をこえて助け合うことの大切さを理解したり伝えたりするために、国際社会の状況について書かれた文章の概要を捉えたり、意見や感想を伝えたりすることができるようにする。	・本文の内容理解 ・文法確認	・デジタル教科書 ・タブレット ・MetaMoji
8	英作文 ねらい:自分の夢や将来について国際的な視野で考え、自分達にできることを提案する。	・ウガンダ交流から始まり、Unit6 で学んできたことを通して自分が考える今の自分達にできることを考え、英作文を行う。	・ワークシート

6. 本時の展開

時間	3時間目		
本時のねらい	ウガンダとの交流を通して、自分の夢や将来について国際的な視野で考えることができる。		
過程 (時間)	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10)	1 あいさつ及び、本時の確認 2 オンライン接続 (1)レインボーハウスについて知る。 (2)レインボーハウスのロナウドさんによる講話を聞く。	・これから会話する子ども達について知り、自分達との共通点や相違点について考えさせる。	電子黒板 PC タブレット
展開 (35)	4 オンライン交流 (1)自己紹介をする。 (2)互いの国紹介をする。 (3)将来や夢について話しをする。  5 岡崎さんからの問いについて考える。	・互いの国について紹介し、世界にはいろいろな文化や習慣あることに気付かせる。 ・会話が止まってしまうグループには、思考ツール「9Box」(資料2)を使用して、会話が広がり深まっていくように声を掛ける。 ・質問に対する自分の考えや意見がもてるように、例などを出しながら、支援する。	電子黒板 PC タブレット
まとめ (5)	6 振り返り	・オンライン交流を通して感じたことや学んだことについて記入する。 ・Unit6 の単元ゴールに向けて、自分にできることは何かを考えさせる。	タブレット

7. 評価規準に基づく本時の評価方法

・Reflection Sheet への記入

8. 学校外との連携

- ・一般財団法人あしなが育英会 岡崎 祐吉 氏
- ・JICA海外協力隊 直井 道 氏

9. 生徒の学びの軌跡

【第1時 ウガンダ紹介後の振り返り】

- ・ウガンダでは、進学率が低いことに驚いた。発展途上国についてよく知り、自分たちに何ができるのかを考えたい。
- ・教育水準が低いことに驚いた。その原因について理解を深めて、対策を考えたい。
- ・自分たちが恵まれた生活を送れていることに気が付いた。日本であたり前のことが、発展途上国ではあたり前ではない。
- ・ウガンダの人たちとしっかり話せるようにしたい。交流を通して知識を深めたい。
- ・発展途上国の違いを知るきっかけになった。自分から知ろうと思わなければ発展途上国については知らないままだった。もっといろんな国について知りたい。
- ・以前、レインボーハウスについてのテレビを見たことがあった。ダンスをしている姿が前向きで、どんな生活をしているのか気になった。

【第3時 レインボーハウスとのオンライン交流後の振り返り】

- ・思っていた以上にウガンダの人たちの表情が明るくて驚いた。レインボーハウスのような施設に入所できていない子どもがまだまだたくさんいるから、多くの人にもっと世界の状況について知ってほしい。
- ・大学に行くためにお金を貯める必要があり、「ワークハード」「スタディハード」って言っていた。また、「大学に行きたい」ようなことを言っていて、本当に大学に行くのは大変だということを感じることができた。
- ・ウガンダの人は学校に行けない人が多く、あまり裕福の人がいないから、少し暗めの人が多いと思っていたけど、とても明るく親切な人で、家族の話や友達の話、学校の話を実際に教えてくれて、貧富の差に関わらず、幸せな生活を送れることを知れてよかった。また、クイズにも興味を持って、リアクションしてくれたので、国のちがいを関係なく分かり合えるのだと分かって嬉しかった。
- ・ウガンダの生徒は思ったより明るかった。とても英語が上手で、家族の写真(family って言っていたからそうかなって思った)も見せてくれた。ウガンダのために、困っている問題を知ること、解決する姿勢を大切に、今後も生活していきたい。
- ・オンライン交流で自分たちの学校の特徴を紹介したり、お互いの夢を語り合ったりして少しずつ関係を深められてよかったと思う。また、岡崎さんやロナルドさんの話を聞いて、まだウガンダの人たちがみんなが幸せになったわけではなく、学校に行けていない人もたくさんいる事が分かった。だから、班で話し合った対策？などが本当に実現できたらいいなあと思う。この交流から他国と良い関係にするにはどうすればいいのか、どうすれば発展途上国の人たちが笑顔になれるのかをもっと自分の考えを深められるようにしたい。
- ・ウガンダの人々との交流を通して経済的に苦しいこともあるだろうけど、しっかり笑顔や将来の夢があつてめちゃ元気をもらえることができた！またウガンダの様子や文化を知ることができたので良かった。

【第5時 JICA海外協力隊 直井道氏の講義後の振り返り】

- ・直井さんの話を聞いてウガンダなどの発展途上国ではまだ正しくて優れた技術が身につけていないので SNS などを通して日本や欧米の国々の正しい技術を伝えられたらいいなと思った。ウガンダは自然が多く、日本では見られない動物や虫がいてびっくりした。特に、シロアリを生で食べるのは驚いた。
- ・講義やオンライン交流をする前は、ウガンダへ車や自転車はなかったり、笑顔がなかったりというマイナスなイメージをもっていた。でも、直井さんの話やオンライン交流を通して、笑顔がたくさんあったり、車もあったり、学校に行ける人も多かったりとプラスのイメー

ジを多くもつことができた。今ウガンダの現状や抱えている問題を聞いて、もっと支援を望んでいる子どもや大人がいることを知り、自分にできることはできるだけしようと思った。

- ・他国を救う、支えること＝自分達の国を守ること、外国産のものを意識して食べるなど普段の生活で他国の支えになっていることもある。ということを知れて、今までよりもっと国際協力、国際貢献を身近に感じることができた。同じウガンダでも、都市の方では日本と同じようなコンピューターを使った授業がされているのに、地方の方では壁が壊れたままや黒板が見にくい学校もあるという差があることを初めて知って驚いた。自分だったら家族と離れて2年間もウガンダで暮らすなんてできる気がしないが、直井さんの話を聞いて日本で普通に生きていたらできないような経験をできるのがいいなと思った。青年海外協力隊になれる職業が190もあることを知って、一つの将来の道として忘れずにいようと思う。直井さんの「現地に行かないと絶対分からなかった」という言葉を聞いて、やっぱり知ることって大切だと思った。

10. 自己評価

① 成果が出た点

- ・発展途上国に興味を示す生徒が増えた。「知らなければ、何をしたらよいのか分からない。」といった発言もあり、まずは知ることが必要と実感していた。
- ・オンライン交流を実施し、直井さんの講話も聞いたことで、ウガンダを遠い国ではなく身近に感じる生徒が増えた。「行ってみたい」といった肯定的な言葉が多く出るようになった。
- ・振り返りシートから、発展途上国の人々は「幸せではない」といった考えが減った。自分たちにできることを考えていきたいと、これからに繋げていこうとする姿勢が見られた。
- ・日本の物がウガンダでも使用されていることを知って、日本とウガンダの繋がりを感じていた。

② 苦労した点

- ・間違った情報を与えないこと。
- ・単元の中にどのようにして今回の授業を取り入れていくか。

③ 改善点

- ・担当しているクラスでしかオンライン交流を実施できなかったため、全クラスでの実施。
- ・自分の気持ちや考えを英語で伝える表現の工夫や改善、相手の発言に対して質問したり、意見や感想を述べたりする力の育成。
- ・オンライン交流時の音声や接続等の問題への対処。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校HPでの授業の紹介

12. 自由記述

単元のゴールである、「国をこえて助け合う大切さを知り、自分に何ができるのかを考える。」に向けて、最初はどんなことを英作文に書けばよいのか悩んでいる生徒が多かったが、最終的な英作文では、自分たちにできることに対して「寄付」ということだけではなく、「英語をもっと学ぶ」、「世界のこういった状況を周りに知ってもらう」、「他国の文化を知る」といった様々な意見が出てきた。今後はウガンダだけではなく、様々な国に目を向けられるような国際理解教育の授業を積極的に実施していきたい。

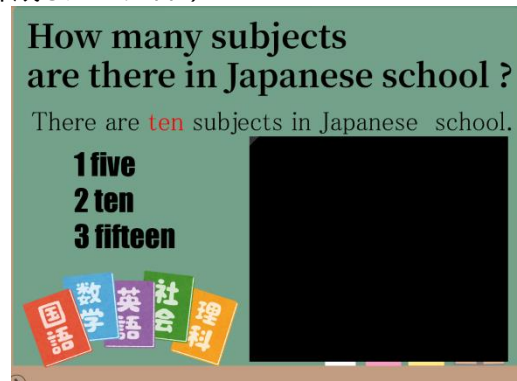
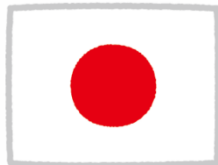
13. 参考資料

資料名	出版元、URL 等
朝日新聞 SDGs ACTION!	https://www.asahi.com/sdgs/article/15404649
2023 年度 JICA 筑波ラオス教師海外研修 国際理解教育 授業実践報告書	独立行政法人 国際協力機構 筑波センター(JICA筑波)

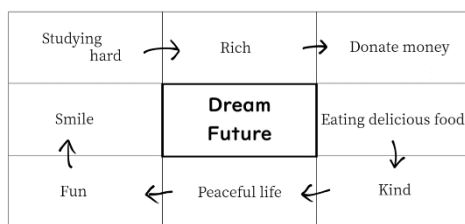
14. 本時で使用した資料

資料1 (生徒たちがオンライン交流に向けて作成したスライド)

! Quiz about Japanese school !



資料2 (生徒が将来の夢を整理するために使用した思考ツール「9BOX」)



England	English	language
all over the world	Dream Future	relation
travel	food	world heritage site